



仲間と共に

学校目標 「めあてをもち 仲間と共に やりぬく心」

令和6年4月30日

「何かを与える」のか、「何を与える」のか

校長 石田耕太郎

新年度が始まり、早いもので一か月が経ちました。新入学した1年生や進級した2～6年生は、それぞれの学級での生活も軌道に乗りつつあり、今日も元気な声や明るい笑顔が三輪南小学校のあちらこちらで見られています。

先日「岐阜北警察署交通安全協会三輪南支部」の定期総会に参加させていただきました。令和5年度の活動報告がなされる中で、交通安全教室や街頭指導等大変多くのことでお世話になっていることを振り返りながら聞かせていただきました。中には、「田の畦から伸びた草が通学路に飛び出して、子供たちが車道に膨らむため、除草作業をした」という報告もあり、見えないところで様々な活動を通して、子供たちの安全を守ってくださっている事に感謝の思いでいっぱいになりました。この定期総会の中で、通学路における危険個所の舗装のカラー化が話題になりました。ドライバーに対して視覚的に速度抑制を訴えかけるこの取り組みは、全国的にも子供たちが交通事故の被害者にならないことに効果を上げています。この舗装のカラー化を三輪南地域でも促進しようと全会一致で確認されました。その中で最も印象に残ったのは、「この地域の宝である子供たちの命を守るために」という言葉です。力強く語られたその言葉には、「明確な目的意識」が感じられました。だからこそ、会に参加していた私たちにも「舗装のカラー化」の必然性が伝わってきました。地域の方々が、子供たちの安全について熱く語り合う姿は、決して表に出ることはありません。しかし、このように思いを共有しながら、地域の未来を見据えて真剣に考えている方々の「明確な目的意識＝何を与える」が、私たちの生活を支え、見守ってくださっていることが実感を伴って伝わってきました。

今、三輪地域の畑では青々と穂を伸ばす麦が見られます。麦を見ていると、子供の頃、冬や春先に畑で麦を踏む農家の人を見たことを思い出します。当時、せっかく芽吹いた麦をどうして踏んでいるのか不思議に思い、質問した記憶があります。その時に、この行為が「麦踏み」ということ、麦踏みをすることによって「麦が強くなる（根が強くなったり、霜に対する耐性が向上したり、茎がたくさん分かれたりするようです）」ということを知りました。農家の方は、麦を強くしたいという明確な目的意識があって麦を踏んでいたのです。その行為を知らなかった当時は、不思議に思うとともに「せっかく芽吹いたのに踏みつけるとは、ひどいことをしているものだ！」と思いました。しかし、麦にとっては踏まれることで、将来より強く丈夫に成長することが出来るのです。

私には先に紹介した総会での話し合いが、麦踏みの思い出として思い起こされました。そして、私たちは子供たちに、「何を与える」のか、その本質を決して揺るがさないようにしなければならないことを考えさせられました。

5月は4年ぶりに全校一斉の運動会が行われます。運動会を通して、子供たちに「何を与える（考えさせる）」のか、明確な目的をもち取り組んでまいります。ぜひ、取り組みから含めて子供たちの姿に注目してください。



豊かに実った麦 6月には収穫を迎えます